

V. 稲城市の色彩のルールの考え方

(3) 対象区分②の色彩

>>> 既成市街地、平尾地域

>>> 中高層建築物



色彩景観の現況

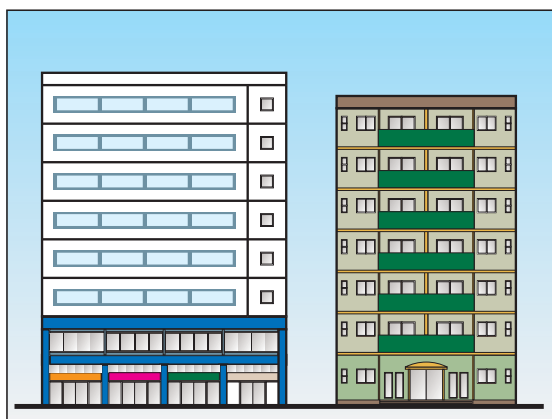
- ・川崎街道をはじめとする幹線道路沿道を中心に中高層住宅や業務商業ビルが立地しています。外壁基調色については、暖色系の色相が中心で、やや明るめの低彩度の色彩となっています。
- ・中高建築物等の一部では、低層部と中高層部の色の塗りわけや使用部位に応じた配色がなされ、長大な壁面に表情を与えています。
- ・棟数も多く周辺に与える影響が大きい平尾住宅の集合住宅群では、Y R (黄赤) 系の低彩度でやや明るめの淡いベージュ色が使用されているため、ボリューム感が軽減されています。

色彩誘導の考え方

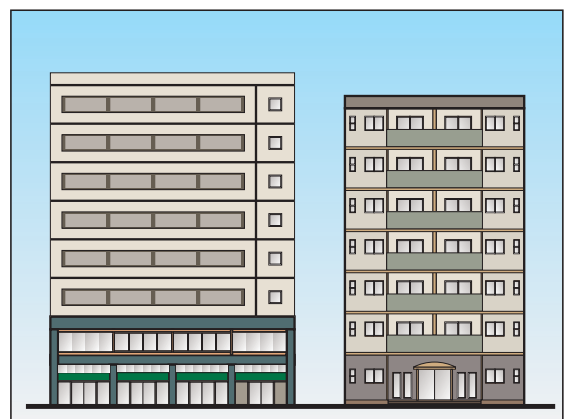
- ・周囲のまち並み景観と調和した色彩を基本とします。また、背景となる丘陵地に違和感を与えない低～中彩度程度の控えめな色彩を基調とし、自然景観から突出して見え、光の影響を受けやすい極端に明度の高い(白い)色調の使用を避けるようにします。
- ・外壁強調色は、目立つ高彩度の使用を避けて、周囲のまち並みに調和しつつ、建築物に表情を与えることが可能となる中彩度程度までの色彩とします。また、背景の緑地景観との調和を図るため、高明度の色彩については、中遠景から目につきやすい高層部への使用をできる限り避けるようにします。
- ・長大な壁面により単調になりやすい商業施設などは、背景となる丘陵地に配慮しつつ、建物に表情を与える強調色やアクセント色を低層部等に用いることで、歩行空間ににぎわいを与えます。
- ・屋根面については、起伏に富んだ地形により、多くの場所から眺望することが可能なため、周囲のまち並みに配慮しつつ背景となる緑から突出しない、中明度、低彩度までの色彩とします。

【色彩誘導のイメージ】：落ち着いた暖色系の低中彩度の色彩とし、周囲のまち並みとの調和を図ります。

【誘導前】



【誘導後】



色彩の範囲



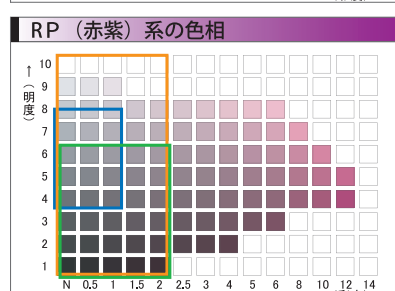
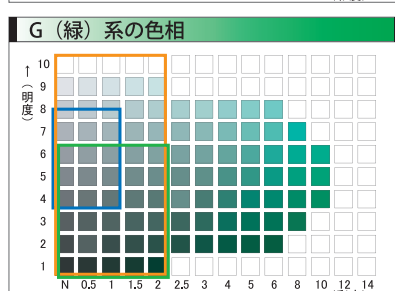
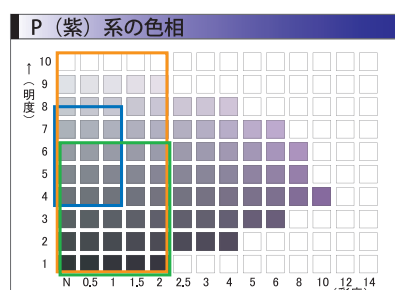
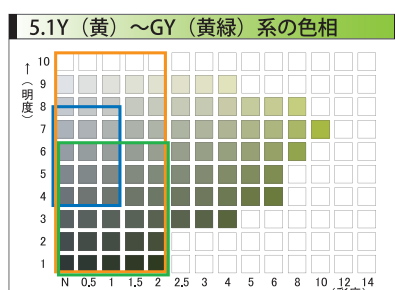
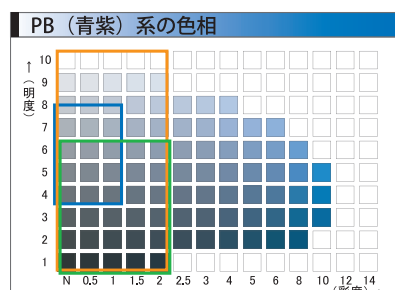
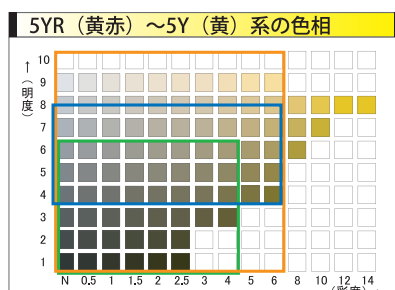
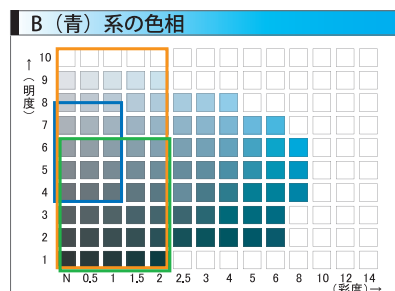
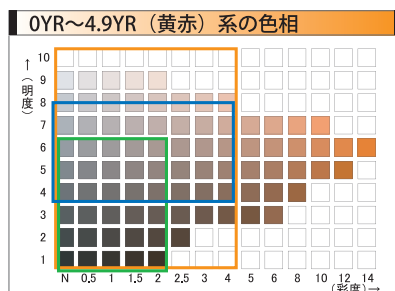
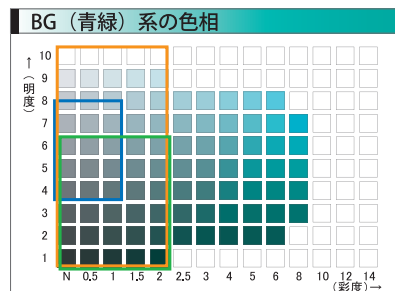
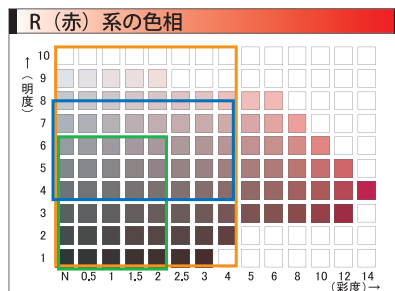
ルールの適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基調色	0R~4.9YR	4以上8.5未満	4以下
	5.0YR~5.0Y		6以下
	その他		1以下
外壁強調色	0R~4.9YR	-	4以下
	5.0YR~5.0Y		6以下
	その他		2以下
屋根色	5.0YR~5.0Y	6以下	4以下
	その他		2以下

対象地域

既成市街地
平尾地域

対象規模

高さ10m以上または
延べ面積1,000㎡以上の建築物



凡例

- 外壁基調色の色彩の範囲
(外壁各面の4/5以上はこの範囲から選択)
- 外壁強調色の色彩の範囲
(外壁各面の1/5以下で使用可能)
- 屋根色の色彩の範囲

※色票は基本的に各色相の中央色のみを示しています。

※色票の中央に使用可能範囲の境界線があるものについてはその値の「0.5」を示しています。

例えば下記の場合は

8 8.5未満となります。